

# 2020年9月超覚寺報 第43号

## 【ハアア崛だより】



“アマビエ”  
森秀一 画

コロナ禍で休会していた下記の催しは、3密に充分に配慮して、9月から再会します。短時間ですが、お寺でボートしませんか。

◎ テンプルモーニング：毎月第1土曜日7時30分～8時30分

朝のお寺でお掃除するだけの、のんびりした時間を持ちませんか？

◎ 寺子屋サロン(浄土真宗基礎講座)：13時半～15時

原則毎月28日(28日が土・日に当たる場合は直前の金曜日)に、毎回「テーマ」を設けて、皆で座談する形式で開催しています。

◎ 死別の分かちあいの集い：13時～15時

・夫：毎月第1土曜日　・自死：毎月最終土曜日

当事者の方々と僧侶(超覚寺住職)との分かちあいの集いです。

◎ 「NPO法人 食べて語ろう会」スタッフ募集中!!!!

「基町のばっちゃん」と中本忠子さんが、事業拡充のため調理スタッフを募集しています。超覚寺の御門徒も1名いらっしゃいます。週1回でも大丈夫です。非行や犯罪を起こした少年・少女の自立支援活動に関心のある方は、どうぞ超覚寺までお問い合わせください。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について  
遠方の方は、お振込もどうぞご利用ください。

【ゆうちょ銀行】5190-55770601

他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、次のように入力してください。

【店名】五一八(読み ゴイチハチ)  
【店番】518(普通預金)5577060

◎ 報告・連絡：“債”談

境内駐車場横の池に小さいカエルが住み着いています。9匹まで確認しましたが、おそらくは3年前に花屋さんから頂いたカエルの子孫かも？水中にはオタマジャクシが10匹以上いるので、来年はもっと増えるかも？環境指標であるカエルが、境内で繁殖しているのは何がうれしいです。発行人：超覚寺住職 和田隆彦(釈隆恩) (\*ーーー人) 合掌

林鷲山 憶西院  
超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI  
(since 14歳 2162, 西暦1619, 元和5)

〒730-0013 広島県広島市中区ハ丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113  
Mail : wada@namuamidabutsu.com

HP : <http://www.namuamidabutsu.com>  
<http://mytera.jp/tera/48chokakuji>

2020年8月19日(水)午前2時過ぎに、前坊守が亡くなりました。

88歳でした。数年前からの認知症が今年から急に進行し、膠原病も悪化したので、今春から入院していました。コロナ禍でお見舞い禁止で誰にもお知らせ出来ず、どうとうそのまま往生しました。

主治医先生から「年内持つかどうか」と聞いていましたので、コロナ感染対策の御葬式の形を模索していました。オンライン御葬式が認められ、お寺の人間でも家族葬が許されそうな状況でしたが、こいつ状況だからこそ、「ちゃんと御葬式をすれば、その意味や意義がしっかりと伝えられるのではないか?」と考えようになりました。ウチの本堂ではソーシャルディスタンスに配慮すれば30席までかな…、近親者で10席、茶道のお弟子さんで10席、その他で10席…、導師は隣寺の住職と私の二人で勤めて、他のお寺さんは全て遠慮して頂こう…、でも、それで良いのか? 「お焼香だけでも」と仰る方々の受け皿は何かあるんじゃないのか?

それで考えついたのが、開式前数時間の「お焼香タイム」です。中國新聞の死亡広告にその旨を明記したので(大型欄で全地域に載せたので金額は張ったけど)、大勢の方が来られました。一時にお参りが集中し密になることもなく、安心してお参りされたと思います。想定外だったのは、お焼香タイムに参られた方々とゆっくりお話し出来たことです。普通の御葬式なら参詣者とは挨拶程度でしか話せませんが、今回は故人のいろいろな昔話をたっぷり聴けました。私と故人の関係性とは全く違う、他の方々と故人ととの関係性を知ることで、今回の御葬式を必要としている方々の存在をより広く認識できました。そして、他の方々と故人ととの繋がりを幾つも知ることで、私と故人との繋がりも再構築できました。

ご存知の方も少なくないでしょうが、私と前住職夫婦とは仲が良くありませんでした。布教や寺院運営でよく衝突していて、私が住職を継いでからは話もしません。介護は妻が全てしてくれました。ア

## ☆【コロナ禍とお寺】

近年、温暖化が原因と思われる災害が世界中で頻発している。日本も春夏秋冬のバランスが崩れ、春・秋の期間が短く、夏の猛暑も年々酷くなり、台風も大型化している。もはや日本は亜熱帯気候だ。

環境学者が「北極圏の永久凍土や氷河が溶けると、その中で休眠中の未知のウイルスが蔓延するだろう」と警告している。今回の新型コロナも、未開の動物との接触が発端らしい。環境活動家の警鐘にも先進国や大企業のトップらは耳を貸すことなく経済活動に邁進していたが、最近、プラスチックによる海洋汚染がクローズアップされ、レジ袋有料化などが始まった。……はたして間に合うのだろうか?

このコロナの出現によって生活環境も大きく変わり、今までの「普通」が通用しなくなつた。感染者狩りのように人間の本質も露呈した。感染症予防の為の生活様式の劇的変化が、人々の健康に別の悪影響を及ぼし、生活習慣病等の悪化で亡くなる人が増加している。

そのような生活の中で、経済や健康の不安で心の病に大きく苦しむ人も増えてくるだろう。不安で行き場がない人たちの受け皿として、お寺が成り得るだろうか? 灯を求めている人の灯台として、お寺は指針を示す明かりを灯すことが出来るだろうか? いや、出来得るし、そうするのがお寺の責務だと、日々実践していくだけです。

## ◎ 第3回 納涼落語会 10月中?(法要はありません)

広島市内のコロナ禍次第ですが、今年も  
広島県民お馴染みのマルチタレント中島

尚樹さん主催の落語会を招致いたします。  
井上恵津子さんも登壇頂く予定です。

日時は未定ですが、予定が決まり次第、お寺の掲示板やインターネット(TwitterやInstagram)にて公表します。

# 超覚寺 秋の法要 のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがとうございます。さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますが、**コロナウイルス対策をし、3密に充分に配慮しますので、ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。**<(\_ \_)>

## ◎ 秋季彼岸会(永代経)法要

9月19日(土) 13時～ 勤行：住職

13時30分～15時30分 法話(休憩有)

瓜生崇師(滋賀県東近江市玄照寺)

瓜生先生は、昨年の超覚寺400周年記念法要でもお話を頂きました。それを機縁に今後毎年お越し頂けことになりました。



## ◎ 2020年 報恩講法要

11月7日(土) 13時～ 勤行：住職(市内住職出仕予定)

13時30分～15時30分 法話(休憩有)

小山興圓師(愛知県安城市本證寺)

住職が学んだ「大谷専修学院」という僧侶養成所の同期になります。昨年に引き続き親鸞聖人のご生涯を絵解きでお話を頂く予定です。今回は、3密を避けるために、昼食(お齋)は無し、午後の部だけにします。



◇ 10月6日に予定していた「節談説教布教大会in広島」は、コロナ禍で中止になりました。毎回、広島西別院(中区寺町)が満堂になるほど参集されるので、3密は避けられないと判断しました。オンライン等で開催される場合は、またご案内いたします。

→ 正直なところ、直近まで御葬式に出たくありませんでした。喪主は、私の母親(故人の実妹)に早々と決めましたが、他の御葬式と重なればなるとか仮病を使おうかなどか毎日1回は頭に浮かびました。そんな折、コロナ禍で自粛ムードが蔓延し、改めて御葬式の意味や意義を考えるようになりました。前住職の御葬式の時は、親族代表挨拶で号泣してしまい、そのおかげかすっかりスキリして、前住職へのわだかまりは消滅しました。今回もそうなるだらうと予感めいたものはありましたが、事実その通りになってしまった(全く泣きはしませんでした)。結果、普通に御葬式をして良かったと思っています。

過去は変わらないし、恨み辛みも消えないし、嫌な思いも忘れないし、許したわけでもありませんが、それら全てが、もうどうでもよくないってしまいました。あれほど嫌だった人の御骨を、私も入る予定の合同墓に納めても構わないと思うようになり、この変わりようには我ながら驚きます。御葬式をしなかったら、この胸中のトゲを後生抱えたままだったかも知れないので、今回はまさに私のための御葬式だと考えます。遺族側になつて、儀式の必要性を深く頷かせてくれました。

高真宗大谷派超覚寺前島支會長守筆填尚子儀  
ここに生前のご厚誼を深謝し謹んでご通  
音申し上ります  
新規式は左記の通り執り行  
い  
新型コロナウイルス感染拡大防止の  
接を避けてお焼香のみの対応とさせて頂  
ます  
また帳場も設けずお香典等もご遠慮頂け  
ますようお願い申し上ります  
日時 通夜 八月二十九日(木)  
葬儀 近親者のみ 十五時～十七時半(順次お焼香)  
場所 林鶯山 墓地 興圓寺  
一〇二〇年令和二年八月二十九日(金)  
主 墓地  
竹風会員一同代

## ☆【お坊さんのないお葬式】

愛知県の企業がテレビや新聞で「無宗教なのに、お葬式ではなぜお坊さんを呼ぶのだろう。」と広告し、「お坊さんのお葬式」を提案している。昔から、神主や神父・牧師のお葬式や創価学会の友人葬はあったし、都市部では無宗教葬（お別れ会）や直葬が増え、お坊さんのいないお葬式は実は珍しくもない。ただ今まででは、葬儀社が「自ら無宗教葬を推し出すことはなく、喪主が望めばそのままの形の儀式にする」という流れだったから、葬儀社側が明確に無宗教葬を宣伝するのは珍しい。葬儀社から「こういう選択肢もある」と提示されれば、特に菩提寺の無い人は選択してしまうから、今までも一定数はあった無宗教葬が、今後は増えしていくだろうなあと感じる。

ただ「日本人は無宗教である」ということについては異議を申したい。ほんどの日本人は特定の宗派に帰属意識が無く、それで自分は無宗教だと自覚しているが、それは本当の無宗教ではない。お宮参り・七五三・結婚式・お葬式などで、神社やお寺・教会に行つたことが無い人はいないでしょう。また、家に神棚や仏壇があり、家族や親戚の法事への参加、初詣やお盆の墓参り、クリスマスや除夜の鐘など、こちらも全く経験が無いといふ人はいないでしょう。ハロウィンや節分の豆まきに至っては、宗教性を感じる人が少數でしょう。これらの宗教的な行事を徹底して避けるのが本当の「無宗教」だから、様々な宗教と上手に付き合ってきた日本人は、実は「無宗教」なのではなく、多宗教信仰者なのだと言える。

【なにごとのおはしますかは知らない間に涙こぼる】  
と西行法師が詠んだように、日本人は自然の中に神仏や靈を感じる感性を濃厚に持っている。形見を大切にすること、靈障などと呼んで気にしてしまうことになる。今では不動産の事故物件情報がもてはやされている。日本人の敏感な感性に対応するために、一定の安定した宗教的世界観を提示して、お葬式を司つて守ってきたのが既成宗教の宗教者だと思っている。先人たちが、必ずしもその宗派の信仰に篤くなくても、既成宗教のお葬式を継続してきたということには、先人の知恵があるよう思う。長い歴史の中で試行錯誤を重ねた結果、経験的に「これは良さそうだ」ア

→ と感じたことの集大成が「お葬式」という伝統文化として残っているに違いないからだ。宗派によって異なることがあるが、日本の既成宗教の役割は、ご先祖や故人を大切に祀り、感謝したり思い出したりする場と機会を与えることである。子どもに迷惑を掛けたくないからと、宗教儀式とのつながりを断つ人が増えてきたが、子どものためを思うなら、それは逆効果だと思う。ご先祖や両親のことを弔い感謝する機会のない人は、幸せになる感性を育めないからだ。家の宗教を引き継ぐ必要は無いが、自分なりの死生觀や宗教性を持つことは大切で、それはお葬式や法事に参詣して、人生や死について考える機会を持たないと身に付かない。その場数を踏むためにも、宗教儀式は役に立っていくだろう。

もう一つ重要なのは、死後の葬送や埋葬などは宗教的領域として行政が立ち入れないということ。医療や福祉のように最低限を補完する行政サービスが、「人のお弔い」には無い。そこは、今のところ宗教者に委ねられている。確かに評判の良くない宗教者もいるし、お金を節約したいというのも分かるが、だからと言つて宗教儀式を排除してしまっては、経済的利益より精神的不利益の方がずっと大きいと思う。  
お葬式を節約すればどうなるか？ 簡易なお葬式として直葬や火葬式などを幾つか勤めてきたが、それでは結局自分の気持ちが落ち着かなくて法事を追加する人をたくさん見てきた。お葬式の肝心要是、自分の悲嘆をケア出来るかどうかだから、参詣者が居なくとも宗教者が居なくても、その場のご遺族が悲嘆をケア出来ながら、葬儀社の葬祭ディレクターだけでも構わないかもしれない。でも、経済的なことと精神的なことは相反することではなく、それに仏教は、お布施（＝金額は決まっていない）で故人をしっかりと導くという精神性優先を維持している。金額に関わらず丁重にお葬式を勤めるのが、本来の「お坊さん」の責務だからだ。  
合理的なことが優先される時代だが、それはほどんど「経済的」であるといふことに過ぎない。お葬式や法事だけではなく、ひな祭りもお彼岸もお盆もクリスマスも、行事には経済的な合理性は無い。しかし、精神的な合理性がある。「喜怒哀楽」という精神的な彩りが人間には必要で、そのためにはそれを感じられる儀式や場が必要なのだ。年月を経て築き上げられた宗教的なお葬式は、やはり我々には必要必然なのだと思う。